

◀ S · E · L · D · A · A ▶ No.5

昭和61年 7月25日 発行

上智大学英語学科同窓会
東京都千代田区紀尾井町7-1
上智大学英語学科事務室 気付

Sophia English Language Department Alumni Association

第1回定例総会の11月開催に向けて

上智大学英語学科同窓会会長 鈴木 達也

昭和58年に設立された我が英語学科同窓会も、はや3年目を迎えました。会則によりますと、本会は3年に1度定例総会を開催しなければならないことになっており、今年がちょうど総会開催の年になっております。従って本会では来たる11月29日(土)に第1回定例総会を開催する運びとなりました。この総会は昭和58年の設立総会以来、初めての定例総会ということになります。

総会ではこの3年間の英語学科同窓会の活動についてくわしくご報告させていただくとともに、次期会長を選出していただくこととなります。また総会後には、毎年行われているSELDAAPARTYを例年にも増して盛大に開催するべく準備を進めております。

くわしいご案内は秋に発行いたします会報NO.6の紙面にてお知らせいたしますが、ひとりでも多くの会員の皆さんにご出席いただくために、こうして早めにご案内する次第であります。

どうか今すぐ予定表にお書込みのうえ、他の同窓生にも声をかけていただき、多数ご出席くださいますようお願い申し上げます。

SELDAAPARTY開催される。

去る11月30日(土)午後4時より、上智会館第1会議室に於て、第2回SELDAAPARTYが催された。師走も目前に迫り、何かとあわただしい時期ではあったが、小春日和の好天に恵まれ、お忙しい中、約80名の会員及びそのご家族の皆様が出席、久々の母校や、懐かしい友人との再会に、話も尽きぬ2時間あまりの和やかな集いとなった。

PARTYにはエバレット先生、ニッセル先生もお見えになり、社会の第一線で活躍中の卒業生、あるいはその二世に囲まれ、うれしそうな様子であった。

一昨年、第1回のPARTYの際、FAMILY PARTYと銘うって開催したところ、ご家庭を持っていない独身の会員の一部の方が、何となく出席しづらい印象を持たれたとの経緯から、今回の名称になったわけであるが、それが効を奏してか、出席者の顔ぶれも、すでにお子さまも大きくなられた方から、社会人1年生、2年生といった若い世代まで、幅広い層であった。

席上、野口基金運営委員会より、第1回野口記念懸賞論文の経過および選考結果が発表され、受賞者3名に当会の名誉会長であるエバレット先生より表彰状および賞金が授与された。各受賞者は先輩諸氏に囲まれ、多少緊張の面持ちではあったが、それぞれインタビューに応じて受賞の喜びや論文作成中の苦労話などを披露してくれ、英語学科の未来も頼もしいことを出席会員一同確信した。

学生番号もすでに80代が卒業生としてSELDAAMEMBERに加わっている今日、かつての英語学科での学生生活や、当世学生気質との違いなど、お互い懐かしんだりうらやんだりうちに、名残りは尽きないもののお開きの時間となり、皆また来年の再会を期して大満足のうちに帰路についた。

今年は、設立以来3年目にあたり、総会に引き続いて同時開催されるので、より多くの会員の出席が期待される。

英語学科は今

英語学科長 楠瀬 淳三 (昭和39年卒)

図らずもこの4月から英語学科長の大役をお引き受けすることになりました、卒業生の楠瀬でございます。至らぬ点が多々あろうかと懸念されますが、与えられた職務に対し全力で頑張りたいと思っております。service and sacrifice の精神をもって職務の遂行に当たる覚悟でありますので、どうぞよろしくお願いを致します。

申し上げるまでもなく英語学科は1958年に創立されて以来、30年の歳月が経過しようとしています。これまで英語学科の卒業生は、3,870 余人を数え、上智大学の卒業生のなかでも大きな比重をしめるに至っていることは私どもにとりまして喜ばしい限りであります。日本の大学の中でも本学の外国語学部英語学科の存在は、もともと古い歴史と伝統のある学科であることを卒業生の皆様はよくご存知のことと思います。大切なことは、この良い意味での伝統を十分に踏まえ、将来的にこの英語学科をどのように方向づけるかということです。この「方向づけ」を行うことこそ教育と研究の現場にある私どもに課せられた責務であります。つまりそれは将来へ向けての先見性に基づいた「創造性」といってもよいと思います。アメリカ的な考え方ではありますが、Universities are incubators for new ideas. (大学は新しい思想のふか器である。) という言葉もあるとおり、伝統をフルに活かしつつ新しい考え方を創り出すためによりよい方向を深求し続けなければなりません。

英語学科ではバイブルの英語からコンピュータープログラミングにいたるまで文字どおり多種多様なコースが開講されておりますが、時代のニーズと諸般の事情を考慮に入れてカリキュラムの再検討をたえず行って、よりよい教育を効果的に行うにはどうすべきかを慎重に論議しております。今こそ更なる飛躍に向かって地道な努力を続けなければならない時だと確信致しております。

専門の学問を学びますととかく考え方が狭く成るような傾向にあります。これは残念ながらですが、事実かも知れません。しかしできるだけオールラウンドになるように心掛けねばなりません。幸いにして私たちの英語学科は昔から教養学科的な性格がかなり強くあったといつてもよいと思います。今日でもそのとおりだと思います。学生は自分の関心と興味、将来的な各自のニーズにかんがみてかなり自由に科目の選択を行うことができるようになってきました。そしてまた同時に課外のいわゆるクラブ活動においても他の学部、学科の人々とも親友を作ることができるわけで、健全なクラブ活動はきわめて結構なことだと思っています。私どもといたしましては、学生が英語学科を中心にして幅広い交わりのなかで真の意味でのソフィアンに成長することを希望しています。健康と希望こそすべての源です。ことわざにも、He who has health has hope, and he who has hope has everything. とあるとおりです。

縁あって上智大学英語学科に学び、そして卒業されていった方々は、世界中でいろいろな分野、地域で活躍されています。大学時代のクラスメイトとの出会い、教員からの教え、先輩、後輩との出会いなど様々な邂逅こそが我々の人生にほかなりません。この「出会い」を大事にしたいものです。

さて今年秋には英語学科同窓会の定例総会が開催される予定になっております。いろいろとご多用かと思いますが、ぜひ母校を訪れられて楽しいひとときを過ごされますよう、今から心待ちに致しております。

任期を終えるに当り

上智大学英語学科同窓会
前幹事会議長 山本哲生

1 昨々年末ニッセル先生を始め設立準備委員の皆様1年猶余に亘る御尽力により、本同窓会が設立され、初代の幹事会議長を引受け早や2年が経過し、次の方にバトンタッチすることになりました。

この間、鈴木会長を始め、委員の方々、ニッセル先生、エバレット先生、吉田先生、各学年幹事の皆様御協力により、微力な議長役ではありましたが、無事任期まで勤めさせて頂き、厚く御礼申し上げます。

幹事会に出席して、いつも感じることは、一つの行事を立案し、実行するに当り、裏方となる委員の方々の、夫々の職業の合間を縫っての準備や会合など、並々ならぬ努力が払われて、本当の意味の奉仕の精神に頭の下がる思いがします。その甲斐あって、この2年間には、会報の発行、マケクニー先生の記念講演会、ファミリーパーティー、野口記念奨学金懸賞論文募集、ニッセル先生の女性のためのセミナーなど多彩な成果が得られました。

今後、本同窓会が益々発展するためには、国内外の各分野で活躍中の3,500名にのぼる英語科同窓の諸兄姉が、本会運営の実行機関である当幹事会へ、どしどし提案や意見を寄せて頂くと共に、各種の行事にも振って参加され、同窓意識をもって頂くことだと思います。

初代幹事会議長の任期を終えるに当り、本会の発展を望むもの一人として、同窓生の誰もが、何時でも、連絡でき、お互いの消息をたしかめ合える様に、専属の事務室、事務員を置くことが出来る様にしたいと思います。勿論このためには会費の納入者を増やすことが先決であり、皆様の御協力を望んでやみません。

幹事会二代目議長就任に当って

小林 康司 (昭和34年卒)

3年ほど前、同じクラスの仲間から「せめて東京に居る間は、クラス会の世話係をやれよ」というのが、同窓会の幹事になるきっかけだった。理由は、それ迄NHK記者として大阪、金沢、名古屋などを転動していて、上智大学のクラス会に疎遠だったからである。いつまた転動があるかわからない外信部勤務ではあるが、罪滅し的な気持も含めて「それでは少しは役に立とう」という事になった。

SELDAA 伝言板

1 ファミリーパーティー開催のお知らせ

全国の そつぎょうせい え

えんかいの 秋や
パーティーが おもしろいで
ばーていーやつたら なんとうゆうても SELDAAのファミリーパーティーやで
わしらが とくべつの じゅんぴ したる
とても おもしろいで
うたやゲーム
そのほかにも ぎょうさん よおい してるで
たのしみに まっとれや

昨年の設立記念パーティーの興奮をもう一度、というわけで今年も下記の要領で「ファミリー・パーティー」を開催いたします。既婚の方は昔なつかしい先生方や友人との再会の場として、また未婚の方はどさくさにまぎれての「相手捜し」の場として、ぜひご活用下さい。

SELDAA '84がお贈りする今年最大の BIG EVENT、皆様の御来場を心からお待ちしております。

日時	昭和59年11月17日	午後3時～5時
会場	上智会館第6会議室	(上智会館5階)
会費	お一人様	2000円
	ご家族様	3000円

なお、準備の都合の上、ご出席いただける方はお早めに（できれば10月中旬に）同封のハガキにてご返事をいただきますようお願い申し上げます。

2 定期女性セミナーのお知らせ

日頃家庭にとじこもりがちで、なかなか英語に触れる機会がないと嘆いていらっしゃるOGの方々のために、定期的に女性セミナーが開かれることになりました。その第1回といたしまして、来る11月21日（水）午前11時から「ニッセル先生と英語の映画を見る会」が開かれるはこびとなりました。当日今後の会の運営につきましても皆様のご意見を伺いたいと思いますので、関心のおありの方はふるってご参加下さい。

日時	昭和59年11月21日（水）	午前11時開演
集合	SJハウス（教授館）ロビー	（10時45分）

参加御希望の方は11月10日までに下記の世話人まで御連絡をいただきますようお願いいたします。

長谷川真弓	（38年卒）	045-821-0332
鈴木 禎子	（41年卒）	03-321-3378
櫻崎多由美	（43年卒）	0424-88-6692

☆ 英語学科——今・昔 ☆

昭和47年卒（現在英語学科講師）
吉田 研作

大学に残っていると卒業生の方からよく次のような質問をされる。「どうですか、今の学生は」、とか、「昔とくらべてどっちの方が英語ができますか」、そして、「今の英語学科は昔の英語学科とだいぶ変わったでしょうね」。

しかし、正直言って、こういう質問に答えるのは非常に難しい。昔——と言ってもわずか十数年前のことだが——私は学生の立場からしか大学を、英語学科を見ることができなかったが、今は教師の立場から見ているのである。当時、先生たちに「いじめられて」毎日英語、英語に追われていた記憶は、今も鮮明に脳裏に焼きついている。特に記憶に残っているのは、故フォース先生の三段論法とメタフィジックスの授業、故野口先生のブレイクの詩とヒュームの難解な評論、そしてニッセル先生の30秒授業。いずれも恐怖であった。フォース先生の授業では、論理学やら哲学用語の定義を沢山暗記させられたし、野口先生の名講義は素晴らしいが、突然質問されてまごつくことがよくあった。それに、先生の試験は実に難しかった。ニッセル先生の30秒授業というのは、ある日、先生が教室に入ってくるなり“Any questions?”と言われ、我々学生がきよんとしていると今度は“No questions? That either means you all understand the material, or that no one studied last night. In either case, there seems to be no need to have class today, right? Right.”と自問自答されたかと思うと、次の瞬間にはもう教室にはおられなかったのである。教室内がしばらくの間静まりかえっていたのを今でも良く覚えている。ニッセル先生はまた、ある時、5分遅れてきた学生が教室のドアをノックすると、来週の授業にはまだ早いぞ、と言って、追いかえてしまわれた。寮生が下駄やゴムぞうりなどで教室に来ようものなら、すぐにはきかえてくるように言われたものである。

このように、学生の立場から見た当時の英語学科は、かなり厳しいところのように思えたが、その一方で、先生たちとの心と心の触れ合いも感じた。私は特に寮生だったこともあってフォース先生、ニッセル先生にお世話になった。クルトルハイムでの公教要理、学園紛争前によく開かれたニッセル先生たちとの月例懇親会（要するに先生と一緒に飲み食いするための会）、そして、授業の代わりに行ったスケート。いつでも話を聞いて下さった野口先生。SELFの活動などは、この三人の先生方の援助とアドバイスなくしては絶対にうまくいかなかったと思う。

こんな学生時代の英語学科の思い出に対して、今は教師の立場から見た学科と学生しか目に写らないので、本当の意味での比較はできない。それでもあえて比較を試みるならば私の学生時代とくらべて、今は、学生の数も多く、以前のような厳しさが授業に反映されているかどうか。とはいっても、自分では厳しくないつもりでも、私自身の授業を学生がどのように受けとっているのか、正直言ってよくわからないのである。ニッセル先生にある時、前述の30秒授業の一件について思い出話をしたことかあったが、その時、先生は、最近同じことをやったら、先生が教室をでられた直後に、パンザイ三唱が聞こえてきた、とおっしゃっていたことを思い出す。これは一体何を意味しているのだろうか。いずれにせよ、一つだけはっきりしていることは、今も昔同様、英語学科の学生は基本的に非常に真面目で、よく勉強する、ということだろう。

さて、先生と学生の接触の方は、今でもエバレット先生、ウェバー先生ら多くの先生方が公教要理を教えておられるし、グラチアノ先生の研究室には、毎日お昼休みに英語で話をしたい学生が集まり、毎朝エバレット先生の研究室でも同じような英会話の時間が設けられている。また、このほか、ミルワード先生、バーン先生、コリンズ先生の研究室にもよく学生が入り出しており、日本人教師の研究室にも色々な話をしにやってくる。昔のように、一緒に飲み食いすることは少なくなったかもしれないが、また、話の内容も変わったかもしれないが、やはり、今の学生も、先生方との接触を続けている。

ところが同じNHKでも事務職と違ってニュース現場に携わる者の勤務は不規則極まりないため、クラス会や同窓会幹事会の出席を予定してもついで、予定を変更されそうになるのである。そこで同僚達に頭を下げて、やりくりし続けて来た結果、この2年間の幹事会を殆んど欠席せずに来て、ひいては年長者という事も手伝って初代議長の本山さんのあとを引き継ぐ事になったと思う。

引き受けたからには、各年卒の幹事さん達と協力して、SELDA(英語学科同窓会)の鈴木会長を盛りたて、常任委員会をバックアップして行きたい。ただ心配な点が二つある。一つは定例幹事会が当初に比べて、最近では幹事さんの出席率が落ちている事。もう一つは年2000円の同窓会費が思うように集まらない事だ。言うまでもなく、会費は同窓会運営の基盤である。6月14日に開かれた本年度第一回の定例幹事会でも真剣に話し合った。同級生同士で会った時やクラス会などの際、積極的に同窓会費の話をしよう。何とかSELDAを発展させて、他の同窓会に負けられないものにして。何故ならば、英語学科卒業の3,500人余りはみんな誰よりも上智大学外国語学部英語学科を誇りに思っているし、こよなく愛している筈だから。これはジェネレーションを越えて共通したものだと思える。敢えて自分の念願を言わせて頂いた。

同窓生の皆さん、一人一人の意見や提案を参考にしたいと思うので、SELDAのために卒直な便りを寄せてください。

野口基金運営委員会からの報告

—第1回野口記念懸賞論文受賞者決定—

第1回野口記念懸賞論文には、24名の応募がございましたが、昭和60年10月5日(土)の提出締切には、14名の論文の提出がございました。提出された論文を英語学科教授陣により、分野別に厳正に審査の結果、下記3名の論文が各分野の最優秀論文として選出され受賞者として決定致しました。

1. 人文科学分野：萩野勝 (学生番号：81-5019)
テーマ：Hopkins' Belief in God and Interest in Nature as Expressed in his "Bright Sonnets"
2. 言語学分野：小暮太郎 (学生番号：85-5037)
テーマ：An Exploration in the Poetic Function of Language : The Potential for Meaning in Japanese
3. 国際関係論：大西恒樹 (学生番号：82-5058)
テーマ：The Comecon-Increasing Costs of Members

受賞者3名に対し、昭和60年11月30日に開催されました英語学科同窓会パーティの席上鈴木同窓会長、ニッセル神父、エバレット神父より、賞状並びに賞金(10万円)が各受賞者に授与されました。入賞論文のAbstractは、本会報別頁に記載しておりますのでご参照ください。

尚、入賞論文集を作成致す旨本会報にてご案内申し上げておりましたが、予算の都合上作成を取り止めざるを得なくなりましたのでご了承下さい。但し、入賞論文をご覧になりたい方の為に論文のコピーを実費(送料含め約1,300円)で送付致しますのでご希望の方は、上智大学英語学科事務室同窓会宛に葉書にてお申し込みください。(お申し込みの際電話番号も必ずご記入ください。)

—第2回野口記念懸賞論文募集の件—

野口基金運営委員会では、今年度の基金の運用方法につきまして検討致しました結果、前年度の記念懸賞論文募集に対し、学生より積極的参加を得たこともあり、十分に本基金の趣旨を反映されているものと判断し、今年度に就きましても前年度と全く同じ形で記念懸賞論文を募集することと致しました。今後の応募状況、審査結果等本会報にて逐次ご連絡申し上げます。

フォース英語発音教本発刊される。

今年3月、英語学科で永年教鞭を取られ、昭和54年に亡くなられた故ロバート・J・フォース先生が英語学科生のために書かれた Pronunciation Self-Taught を中学、高校生向けに易しく書き直した初級英語発音教本が文英堂から発刊された。この教本は英語学科ジョン・J・ニッセル教授監修、吉田研作助教授編集によるもので、フォース先生が採用された最小対立の原則に基づく発音の提示、およびメトロノームを用いた英語のリズム練習をそのまま踏襲している。

本書の執筆は吉田助教授を中心とする、上智大学応用言語学研究会のメンバーが担当しており、監修およびテープ録音をニッセル教授が担当された。なお、本書およびテープの印税収入は全てフォース・メモリアル基金にあてられ、英語学科のテープ・ライブラリー充実のために使われる。

本書の概要および申し込み方法は下記の通り。

書名： The Forbes' English Pronunciation Workbook—フォース英語発音教本
監修： ジョン・J・ニッセル, S. J.
編集： 吉田 研作
執筆： 上智大学応用言語学研究会
定価： 教本 600円

テープセット 3,200円 (90分カセットテープ2本)
別売りテープ 1,200円

申込先： 〒102 東京都千代田区紀尾井町7-1
上智大学外国語学部英語学科 ジョン・J・ニッセル研究室
(電話の場合は、03-238-3719 英語学科事務室まで)

幹事会報告

昨年秋に発行された会報第4号での幹事会報告の後、現在までに2回の幹事会が開催され、下記の議題が討議、承認されましたので、ご報告いたします。

◆昭和60年度第1回臨時幹事会

昭和61年3月29日開催

1. 昭和60年度決算の承認
込山常任委員より昭和60年度決算書の説明があり、その後石川会計監査員より別段の異議なしとの監査報告を受け、昭和60年度決算は別表の通り承認された。
2. 昭和61年度活動計画、および予算案の承認
鈴木達也会長、並びに鈴木博文副会長より昭和61年度活動計画の説明があり、それに基づいて込山常任委員より予算案の説明があった。活動計画、および予算案は原案の通り承認された。予算案は、別表の通り。

◆昭和61年度第1回定例幹事会

昭和61年6月14日開催

1. 幹事会議長、副議長および書記の選任
幹事会議長、副議長および書記は、下記の通り選任された。
議長 小林 康司 (昭和34年卒)
副議長 石川 雅弥 (昭和40年卒) 原岡 浩子 (昭和40年卒)
書記 徳森 洋子 (昭和59年卒)
2. 本会顧問就任の承認
エバレット前名誉会長 (前学科長)、並びに山本哲生前幹事会議長が常任委員会より本会顧問に推薦され、承認された。
3. 野口基金運営委員会報告
鈴木会長、並びに込山常任委員より本年度の「野口記念懸賞論文」募集について報告があった。報告中、同委員会運営費¥45,000 (昭和60、61年分) を本会予算予備費でまかなう旨の動議があり、動議通り承認された。

以上

昭和60年度決算、および昭和61年度予算

科 目		昭和60年度 予算	昭和60年度 決算	昭和61年度 予算
収 入	1. 前期よりの繰越	552,825	552,825	705,409
	2. 入会金	100,000	178,000	80,000
	3. 会 費	1,400,000	1,500,000	1,400,000
	4. 受取利息	80,000	65,157	40,000
	合 計	2,132,825	2,295,982	2,225,409
支 出	1. 名簿作成積立金	350,000	350,000	350,000
	2. 会 報	200,000	145,200	250,000
	3. 郵送料	384,000	305,820	490,000
	4. 懇親会補助費	100,000	18,110	100,000
	5. 講演会	50,000	20,000	50,000
	6. 女性セミナー	50,000	33,725	50,000
	7. 常任委員会運営費	50,000	36,560	50,000
	8. 事務局運営費	700,000	663,298	500,000
	9. 幹事会運営費	50,000	17,860	50,000
	10. 予備費	198,825	0	335,409
合 計	2,132,825	1,590,573	2,225,409	
差 引 収 支		0	705,409	0

昭和61年4月1日から2年間各年次の幹事の方々は下記の通りです。

32年 森 哲夫、草野 正策	33年 山本 哲生、渡辺 宏	34年 井窠 重慶、小林 康司
35年 草薙 裕、神谷 尚佳	36年 筒井 義人、中村 輝久	37年 長谷川幹夫、齋藤 高徳
38年 石山 輝夫、長谷川真弓	39年 水口 泰弘、関口 祥子	40年 石川 雅弥、原岡 浩子
41年 今村 博展、鐘ヶ江弓子	42年 小島 二宏、丸山 正子	43年 鈴木 正秀、山田 顕子
44年 吉田 正明、深田 博子	45年 遠藤 雄司、菊池 良江	46年 田岡 信雄、高垣 千恵
47年 植村 和志、九鬼 悦子	48年 笠島 準一、河野 ナナ	49年 市川 正明、児島 咲子
50年 川俣 善雄、時 悦子	51年 石川 真弓、小野 亮輔	52年 柳瀬 和明、片野 順子
53年 西野 哲、小西 明子	54年 鶴浦 裕、岡田 敦子	55年 内村 直友、欠 員
56年 金子 茂雄、清水さゆり	57年 向 美穂、宮坂 聖一	58年 松本 曜、黒田 博子
59年 中村 寛、徳森 洋子	60年 陶山 仁、道明 磨美	61年 安藤 光顕、未 定